

## 平成21年度 第3回松山地域協議会会議録（概要）

日 時 平成21年10月7日（木） 9：30～11：56

会 場 松山農村環境改善センター 視聴覚室

◎出席者 10名

1号委員 佐藤ゆき子 阿部 茂 佐々木 亨

佐藤 旭 長堀 俊一

今田 充代 齋藤 尚

2号委員 土田 迪子

3号委員 佐藤 洋子 木村 美津枝

欠席委員

1号委員 齋藤 勝 新館壽美子 遠田 聡 小田 和夫 佐藤 修

松山総合支所 支所長 後藤 吉史 地域振興課長 須貝 彰

地域振興主幹 難波 富也 市民福祉課長 大場 昭一

建設産業課長 川田 進

地域振興課 課長補佐兼地域振興係長 佐藤 直樹

調整主任 石川 春市 主事 乙坂 哲也

健康福祉部 子育て支援課 久松 勝郎

◎傍聴者 1名

◎議事日程

1 開 会

2 あいさつ

3 会議録署名委員の選出

4 報告事項

(1) 松山地域の主な事業について

(2) 平成21年度地域づくり予算について

(3) 松山統合保育園の名称について

(4) その他

5 意見交換

(1) 平成22年度の地域づくり予算について

(2) 酒田市の学区改編方針を受けての地域課題について

(3) その他

6 その他

7 閉 会

1 開会・・・進行を務める地域振興課長が開会する。

2 あいさつ

○佐々木会長

おはようございます。農繁期のお忙しい中に開催となりましたが、ご了承願いたい。欠席委員が多く残念ですが、その分活発なご意見をお願いしたい。

○後藤支所長

平成 21 年度も半分過ぎた。市長・市議選挙を控えた中での予算編成という事情にある。国の方では補正予算の見直しが行われており、22 年度の予算についても先が見えづらい状況である。地方への予算の部分の影響は比較的少ないという意見もあるが、さまざま影響を受けるのではないかと予想される。そういった中で、今日の協議会では 22 年度の地域づくり予算について意見交換していただきたい。地域づくり予算は旧 3 町の突出したソフト事業予算としてスタートしてきた。昨年から若干柔軟性が出てきたかと思うが、基本的な考えは、経常的な予算も含め、「部」に一定枠の予算を割り当てて、部の中で工夫しなさいという考え方になっている。支所に関しても、本庁に予算は有り、予算規模も旧町よりも大きいのだから、松山地域の事業充当について取り組んでいかなければならないと認識している。直接の予算に関しては地域づくり予算に限られるが、本庁の予算を用いて地域課題に取り組んでいくべく、部・課の予算に反映させたいので活発なご意見を頂戴したい。

3 会議録署名委員の選出

○須貝課長 会議録署名委員の選出について、協議会施行規則第 5 条第 2 項により議長及び委員 1 名を選出する。今回の会議録署名人を佐藤旭委員をお願いしたい。

○委員全員 異議なし。

○須貝課長 これからは、会議の議長を協議会設置条例第 6 条第 2 項により佐々木会長にお願いする。

4 報告事項

(1) 松山地区の主な事業について

○須貝課長 平成 21 年の地域づくり予算以外の松山地区の事業について資料に沿って説明します。

松山統合保育園整備事業に関しては、平成 22 年 4 月開園に向け順調に建設が進んでいる。耐震性防火水槽整備事業では成興野地内に 40 立米の耐震性防火水槽を建設する。耐震診断事業は松山小学校の校舎及び屋内運動場の耐震診断を現在着工している。通園用として使用している福祉バスの老朽化に伴い同等のバスに更新する。市道外山越線道路改良は平成 19 年度からの継続事業である。側溝に蓋をし狭隘な道路を改良する。相沢 2 号線の局部改良事業は酒田方面から左折

する場合の進入路を改良するものである。眺海の森再整備事業は木を伐採し眺望を良くするものである。また、案内板を設置し利便性を高める。県施行道路整備事業は、県道海ヶ沢松山線の側溝を年次的に整備するものである。今年度は山寺川先地内を整備する。

経済対策関係事業に関しては、国・県の景気対策・雇用対策に伴い、酒田市でもてこ入れを行っている。松山地域で何を取り組むのか取りまとめたものである。旧セミナーハウスが老朽化して眺海の森の入口の景観を損ねるということで解体する。10月から工事に入る予定である。旧町民プールを解体し駐車場として整備する事業に関しては、後ほど難波主幹が詳細を説明する。松山体育館改修事業は、老朽化に伴い、事務室、外壁、更衣室、トイレを改修する。防災情報機器整備事業は、眺海の森にFM中継所を設置しハーバーラジオを聴取可能にする。ハーバーラジオで市の情報を様々発信しているので、松山地域でも情報提供できるようになる。防災情報の役割もある。コミセン環境整備事業は、南部コミセンの屋根の改修、山寺コミセンの赤松の枝払い、内郷コミセンのトイレの改修を行う。スキー場の関連で、圧雪車の購入とリフトの修繕を予定している。

緊急雇用創出事業は8月あるいは9月から3つの事業でそれぞれ1名ずつ支所に雇用している。地域情報通信基盤整備事業は、民間企業の整備が期待できない地域に光ファイバーを整備することで情報格差を解消するものである。

○難波主幹 旧町民プール解体と駐車場整備工事について説明します。平成15年から供用中止していた町民プールを解体し、松山体育館の駐車場と多目的広場として整備しようというものです。工期は9月11日から12月11日です。機械が動いて実際に工事を始めたのは10月5日からになる。その前の9月24日に関係自治会と中学校等に説明している。体育館の西側にゲートボール等ができる多目的広場を整備する。駐車場は55台を駐車できる。工事の概要は、解体工事は10月いっぱい。その後、造成工事を行い12月11日まで完成する。その後完成検査を行い使用できるようになる。

## (2) 平成21年度地域づくり事業について

○須貝課長 半年経過した現在の状況について事業ごと説明する。

地域協議会運営事業は本日第3回目の協議会を開催している。

青少年国内外交流事業で、鹿児島県志布志市との交流事業は、8月6日から12日に7名の小学生が鹿児島で交流している。1月には鹿児島の児童・生徒をこちらに招いて交流する予定。アメリカとの交流事業は、7月30日から8月6日に8名の中学生と2名の引率者を招いて交流した。

ふるさと会交流促進事業は、東京松山会が5月31日、鶴岡松山会が6月28日に開催している。出席者との交流、情報交換、地場製品のPRを行った。

地域振興事業は、案内板など観光産業等振興に15万円ほど補助を行った。10

月 10 日から開催される「まるごと体験まつやまの秋」という事業にも補助する。桐生市との物産交流が 11 月 3 日に予定されている。特産品の販売拡大事業補助として、酒田ふれあい商工会松山支部に補助している。地域振興事業は中高生ボランティアサークル SUN とアクティブの 2 団体の活動支援、あるいは青少年を対象とした三太郎の道ウォッチング、磯辺のウォッチング、野外写真会などいずれも実施済である。今年は特に、眺海の森の環境整備ということで、支障木の伐採や案内板の設置など予定しており、これから発注する。

場外馬券販売所周辺美化事業は、合併前から取り組んでいる事業であるが、今年も石名坂、相沢、中牧田の自治会等の協力を得て美化管理を実施している。

花いっぱい事業は、道路沿線、眺海の森施設周辺、親水広場、片町地内道路沿線、自治会への花苗の提供などを実施している。業者委託もあるが、自治会やボランティアと事業展開している部分もある。今後どのような活動がよいのか検討していきたい。

生涯スポーツ振興事業の、ウォーキング大会は 5 月 30 日、ウォークラリー大会は 10 月 10 日に「まるごと体験まつやまの秋」とセットで実施する。地域づくり予算についての説明は以上である。

### (3) 松山統合保育園の名称について

○久松課長 子育て支援課長の久松です。統合保育園の名称は「松山保育園」とすることで庁内協議を終えている。理由は、松山総合支所管内の市民にとって旧町名である「松山」に強い愛着があること。そうすることで松山の地名が残る。昨年 11 月に各公民館で開催した説明会でも松山の地名を残すよう要望があった。保育園の位置が特定されやすいこと。旧八幡町と旧平田町の保育園も旧町名を冠しており、松山保育園が自然で無理がないこと。従来酒田市では学区名や地区名を保育園名としていること。こうしたことから名称は「松山保育園」にしたいと考えている。今後は、12 月議会に酒田市保育所設置条例の一部改正を上程する予定で、そこで正式に松山保育園と決まる予定である。

### (4) その他 なし。

○佐々木会長 報告事項に関する質疑はないか。

私から一つ質問がある。平成 21 年度松山地域の主な事業にある地域情報通信基盤整備事業だが、八幡地区には旧町が整備したものがあがるが、平田地区松山地区にはないわけだが、その辺を含め光ファイバーの整備をしようとしているのか。

○須貝課長 この事業は、総務省の地域情報通信基盤整備促進交付金を活用した事業である。民間企業の整備を期待できない地域に光ファイバーを張り巡らし情報格差をな

くそうという狙いである。整備区域だが、酒田市区域でも整備なっていない地域もある。上安町、広栄町、新堀、広野、浜中、黒森、東平田、北平田、上田、本楯、南遊佐といった地域である。それに併せ、松山地域と平田地域の全域を今回整備する計画である。総事業費が9億2千8百万くらいの事業になっている。10月くらいから事業の動きが出てくる予定である。

○佐藤旭委員 ○今の事業のやり方はどこからきた話なのか。

○須貝課長 →具体的な内容については、情報管理課が所管になる。詳細については情報がない。

○今田委員 ○情報格差というが、どのような情報なのか。

○須貝課長 →同じ酒田市内でも既に高速通信網を利用できる地域がある。同じ市民であっても住む場所によって高速通信網を利用できない格差が解消できる。環境を整えることによって誰でも利便性を享受できる。

○今田委員 ○各家庭でも利用できるようになるのか。

○須貝課長 →そういった環境を整える下地づくりを市が行う。それを利用するかしないかは個人対応となる。

～子育て支援課長退席～

## 5 意見交換

### (1) 平成22年度の地域づくり予算について

○須貝課長 平成22年度の地域づくり予算について締切が10月16日となっており、現在予算要求に向けて最終的な検討に入っている。事業のあらましや考え方について説明したい。平成22年度の予算は930万円が一般財源枠として提示されている。それをベースに地域づくり予算を編成していく。委員の皆さんから意見をいただきながらより良い地域づくり予算としたい。内容としては平成21年度予算と大きく変わるところはないが、

青少年国内外交流事業については、22年度はこちらからアメリカへ中学生を派遣することになる。受入と派遣を毎年交互に行っており来年度は派遣となる。

地域振興事業についても今年度と同様に考えている。花いっぱい事業は、これまでは業者に任せっきりの部分があったが、そうした中で、春先に1回目の植栽をしてまだ花が見頃であるにもかかわらず、それを撤去して2回目の植栽を行ってきたが、はたしてこのやり方で良いのか課題だ。これまでのやり方を踏襲するのではなく、美化サポート制度などもあるので、そういった制度を自治会へ紹介周知しながら地域の皆さんと手を取り合い、地域を美しくするにはどうしたらよいか考えながらこの事業を展開していきたい。

基本的な事業の流れについては大きく変わることはないが、委員の皆さんからご意見をいただきたい。

地域づくり予算とは直接関わらないが、眺海の森の事業で、眺望のための伐採や案内板の設置などあるので、その効果を検証しながら、次年度以降の地域づくり予算に反映していきたいと考えている。

- 齋藤 尚委員 ○地域づくり予算は、ここ数年同じである。この事業によって市民がどう変わってきたか、町がどう活性化してきたかが重要だ。その点をどう判断して予算をつけたのか伺いたい。地区の市民がどう思っているのか、あるいは対外的に市民がどう思っているのか、その辺を考えると上手くないのではないかと。町が活性化するような事業に転換できないのか。数年来の継続事業になっている。継続することはよいが、活性化していないのではないかと。もっと観点を絞って事業を行わなければならないのではないかと。もっと賑わいがある方に予算を使えないのか。
- 須貝課長 →地域づくり予算はソフト的な事業が中心である。そのほかにも松山地域については重要な課題がある。例えば眺海の森、歴史公園の整備につきましては、この事業で直接取り組むということができないので、検討会で報告をまとめていくなどの形で、この事業とは別に動いており、それを本庁の方へ提案していき、事業の具体化につなげていき活性化したい。地域づくり予算とは別の面の取り組みもあることを理解いただきたい。
- 齋藤尚委員 ・マンネリ化した事業に感じる。もっと賑わいが生まれる事業に予算をつけられないのか。補助事業は何年間というふうに期間があるが、そういうようにこの事業は何年間で終わり、次は何に取り組むのかというように考えられないのか。例えば、歴史公園関連にこの予算を出すとか考えられると思うのだが。
- 佐藤旭委員 ○例えば、眺海の森は地域に関連がないとは言えないわけだが、こういったものは大きな酒田市として取り組むことであると思う。限られた地域づくり予算であるので、直接的に地域の皆さんに関係するような事業を興してやるべきだと思う。歴史公園とか大きなものは酒田市として計画的に取り組むべきだ。地域住民が直接関係ないようなところで地域予算が行われているような感じを受ける。例えば、私の自治会にはポスター等の情報を張りだす掲示板がない。そういったことに地域づくりとして整備を行えば、住民にとっても直接的なことなので住民も分かりやすい。
- 須貝課長 →地域づくり予算はどうしてもソフト的なものに限られる。その中で様々な事業を行っている。地域の要望等は関係課につなぎながら、できるところから取り組んでいるところである。掲示板については移動市役所でも補助制度がないかという話が出たが、現在掲示板に対する補助制度がないので、まちづくり推進課に地域要望として話している。実現には検討する時間が必要だ。実際、松山で取り組まれている事業が合併前に比べて地域の皆さんに見えづらくなっているのかなという感じがしているので、地域の皆さんに周知していくことも必要ではないかと考えている。

- 佐藤旭委員 ・新しいことをやるのに、要綱がないからやれないという話はおかしいのではないか。必要な要綱は作らなければいつになってもできないのではないか。
- 佐々木会長 ・そのとおりだと思う。行政で考えてもらわなければならない。
- 齋藤尚委員 ・22年度もこの事業を行うということだが、実施した評価はどうなっているのか。予算があるから実施するのではなく、評価の観点から話を聞きたい。
- 後藤委員 ・青少年国内外交流事業だが、うちでは平田の田園調布の中学生を受け入れましたが、松山地区からは2軒だけでした。松山でも、鹿児島とかアメリカと行き来があるわけだが、どうしてそういった方が受け入れしたとか預けたということをやっている中で、他の事業に目がいかないのかなと思ひまして、そこで交流して良かったということが活性化につながるのではないかと思う。今回は受け入れを休もうかと考えていたが、他に受け入れがないから頼むと言われた。もっといろんな家庭で受け入れてもらいたい。そうすれば他の交流にもつながる。
- 須貝課長 →青少年交流事業について、行きっぱなしということではなくて、事後研修ということで反省点をまとめる研修会を設けている。そういった中で課題が見つければ次回に活かすようにしている。そのほかの事業に関してもやりっ放しということではなく、事業の課題問題点を踏まえながら次の事業に取り組んでいる。
- 木村委員 ・アメリカとの交流事業について、酒田市と合併したので止めたかどうかという意見も以前からあったが、相手もあることなのでということで継続になってきた。この予算の中で一番大きな割合を占めている事業だったと思う。来年度は派遣する側である。アメリカの経済不況などもあるので、止めるのは今なのではないかと思っていたが、相変わらずだ。来年度も同じような人数を派遣するのか。徐々に人数を減らして、その予算を他に回すことはできないのか。結局、行ってその後どうなったのかということが何もないので、毎年時期になると同じ話になっている。町の人に聞くと、松山の特長だから続けた方が良いという意見と、直接関係ないから止めた方が良いという意見とあるが、関係ないからと思っている意見の方が多いのではないか。
- 今田委員 ・アメリカからちょうど夏休みの時期に来るわけだが、そういった時期にどういった交流をしているのか。ホームステイは分かるが、単にそこの家であちこち一生懸命に案内しているだけなのか。中学生同士の交流はどういった交流をしているのか。
- 木村委員 ○そういう報告も今までされていない。茶道とか甲冑体験とかスケジュールはつまっているが、町の人に関わっているのかということ、どうなのか。
- 難波主幹 →いろいろご指摘がありました。参加した子どもたちの成果というのは、行ったからすぐに出るものではない。迎え入れたから儲かったというような事業ではない。事業の大きな目的の一つが国際的な心を育てることである。こういったものは実際にものごとを体験して、大きくなってからいろんな心を育てるものである。表に現れる評価としてはすぐには出てこない。ご指摘のあった町の人は何をやっているかわからないというのは、松山地域全体で迎え入れるという部分が不足だったのかな

と思う。海外の方が松山を訪れる機会は減多にないので、松山全体としてお迎えするというのも重要ではないかと思う。

酒田市のはばたきという事業と当初一本化できないかという話がありましたが、はばたきはアメリカに行くだけの事業であり、それぞれの事業の特長がありますので当分の間続けていきたいと考えている。なぜかというと子どもたちの心を育てる事業だからである。それから、具体的には、今年は迎え入れして甲冑を着てもらったり、中学校は登校日にしてもらって中学生といろいろ交流している。ホームステイ先での全くのフリーデイは2日しかなく、他はいろんな行動をしている。酒田市、松山、庄内一円の日本的なものを体験してもらおうというのは、アメリカの子どもだけでなく松山の子どもにも体験してもらいたい。それから受け入れ人数を減らしてという話だが、アメリカの学校とも協議しながら、これ以上減ったらどうなのかという話をしている。

国内の交流事業に関しても酒田市と志布志市と協議を進めるという合意がある。いずれにしてもすぐに事業がなくなるというものではないと思っている。

○後藤支所長 →地域協議会で地域予算について協議すると、同じ様な意見がずっと続いている。分かっているとおっしゃっている意見だと思うが、酒田市の予算組みとしては、支所をのぞいて、本庁各課で予算が付いている。地域づくり予算は過度的な予算措置で、期間限定ということが大前提としてある。合併してすぐに地域で取り組み方の違う事業予算はすぐに一本化できなかった。その部分の予算がこの地域づくり予算として位置付けられている。

酒田市として予算組み、あるいは制度は、一市一制度の方向に向かっている中で、その中にある地域予算であるということをも前提として、みなさんから地域づくり事業について提案、意見をいただいた方が建設的である。その前提を押さえて議論をしないと違った議論になるので、そのことを申し上げておきたい。

国内外交流事業は、松山地区全体として広がりをもてなかったというのは、旧町時代からやってきてずっと思ってきた。しかし、実際にはなかなかできない。コップの中だけで交流しているだけではないかという意見は分かるが、実際にやってみるとなかなか上手いかない。なぜかというところこの事業を経験した子どもたちがほとんど町外にいる。帰ってきていない。ただし、今年に関しては経験者の二人の子どもたちが通訳として活動してくれました。子どもたちにとって、自分たちの先輩が活躍しているという印象があったのではないかと思う。子どもたちのいろいろな感想がありましたが、この交流が小さな親善大使の役割を果たしているという印象があった。そういう意味でまだまだ捨てきれない事業である。それから、昨年あたりから事業名は同じでも、その中身を少し変えるという部分が出てきた。

しかし、予算編成で旧3町のバランスを取っている部分もあるので、眺海の森の案内看板とか眺望改善についても、松山だけなので、酒田市の事業として取り組むと、例えば農林の単独事業、観光の事業という形で予算化になるので、多課に渡って

予算化しなければならない。なかなか上手くいかない。眺海の森一帯として考えると、どうしても地域づくり予算の中に位置付けられる。我々が気づかないような点を指摘して、尻をたたいてもらうような議論をしてもらいたい。

○長堀委員 ・説明を受けて良い面もあるのだと再認識したが、さまざまな意見が出るのは住民感情がベースにある。一人でも多くの住民に関わってもらう。住民のボランティア意識をどう高めるかがベースになっているのではないか。町全体の支援ボランティアが少ないのだと思う。国内外交流事業にしても関わる人を多くしていく、そういったことがこの地区では少ないのだと思う。学習する場も無い。事業はあるが呼びかけが少ない。そのあたりから考えないと、行ってきた、帰ってきたで終わってしまう。その辺をどう取り組んでいくのかが大きい。いつ頃から交流事業に取り組んだのかははっきり分からないが、私の記憶では現在 40 代半ばくらいの人からだと思う。小見にも外国の人が来ているということで公民館で交流したことがある。外国の人が来ているということで老若男女みんな集まって。言葉も通じないが身振り手振りで交流した。その思い出が今でも話題になる。年を重ねても思い出となっているということは良い経験をしたんだと思う。

○土田副会長 ○委員会にいたので内容が分かっているが、離れてみて一般の市民と同じ視点で見ると分からないことがあるのだと思う。今年受け入れしたが、こんなことがあった。資料館で甲冑を着る体験をしたときに、武者行列の関係者がボランティアで体験させてくれたと喜んでいて。お茶や生け花など一部の市民の触れ合いは少しずつやっていたと思う。これからのことは統合のこともあるし、考えていかなければならない。桐生市との物産交流は毎年しているのか。向こうから来た特産品はどこで販売しているのか。松山でどのようなものがあるのか教えて欲しい。

○川田課長 →地場産品振興事業だが、桐生市から松山に販売に来ることはしていない。こちらの商工会が出向いて販売している。こちらのいろいろな産品を紹介している事業に助成している。この事業を契機に新たな産品の開発ということはこの1～2年はなかったと記憶している。そういったこともあり、先ほど事業の評価という話も出ましたが、商工会とはそろそろ事業の目的は達したのではないかと協議している。当面相手もあることですので、22 年度に関しては継続するが、一つの区切りとして部内で検討している。

○土田副会長 ○特産品の開発はここ数年無いということだが、それは自主的に開発されるのを待っているだけなのか。何か働きかけはしないのか。桐生市の物産を並べるだけでも交流になると思うが、それもしないのか。

○川田課長 →桐生市の方としても、販売となると負担となるし利益も上げなければいけないということで現在の状況では松山で物産を販売することは難しい。特産品の開発に関する補助は、地域づくり予算の範疇をはずれて、本庁の所管課が担当になり、そうした補助事業の活用ということになると思う。農商工連携などいろいろな制度があるのでそうした活用が考えられる。

- 土田副会長 ○予算を取るだけで、何もしないのか。
- 川田課長 →そうではなく、制度があるので要望があれば受けられるということ。そうした要望を本所につないで、芽を育てていきたい。また、先日おぼこ梅の受賞などもあったが、有望な芽を大事に育てていきたい。
- 佐藤ゆき子委員 ○花いっぱい事業の説明で、業者委託すると盛りの花を撤去してまた植えるという無駄な話があった。数年前、旧酒田市でゴミ拾いや草むしりのボランティアをして、シールを集めると帽子をもらえる事業があった。自治会に花苗を提供することも良いが、除草や肥料撒きもあるので、自治会に限らずこの地区でボランティアがあるというような情報を松山全体に知らせることで、地区の交流にもなるしボランティアの輪が広がり、美化につながるのではないかと。南部地区でも5月にゴミ拾いがある。そのとき軍手とジュースを1本もらうが、例えばシールを渡して、何枚か集めると10本もらえれば、また参加しようという気持ちになるのではないかと。自治会だけに任せておくと、高齢世帯が増えて、出たいけど出られない人が多かたり、出たくないけど出ないと近所の目が気になったりといろいろな人がいるので、そういう事業に組み入れるのも手ではないかと思う。コミュニティでやれば良いという意見もあるがそれはそれでやれば良いことである。松山地域の中で新しい事業をやるのも良いかなと思う。
- 須貝課長 →花いっぱい事業については、花を植えること一つをとってもいろいろな取り組みでやっている。業者委託、自治会、コミュニティ、松山だけを見てもいろいろなやり方があるし、他の地域を加えるとさらにやり方がある。これまでやってきたやり方が良いのかということは内部でも考えている。来年度やり方を少し整理したいと考えている。春の区長会の時に、酒田市の美化サポーター制度で花の種や用具類が支給されるのでそういった制度を自治会活動の中で取り組んでいくことがあれば手を挙げてくださいという説明をした。実際に取り組んでいる自治会を紹介しながら説明したが、こういったことで花いっぱい運動が地域として盛り上がればよいと思っている。ちょうど見直しの時期に来ているのではないかと捉えている。来年度はこれまでと違った形で取り組みたいと考えている。
- 長堀委員 ○今、花いっぱい運動の話が出たが、小見では花の苗と肥料をもらって、自治会で植えて草取りや管理をしている。業者が植えて業者が管理するところもあるということだが、大変不公平なことをやっているのだなと感じた。花壇の草取りをやるということだけで人が集まるのであれば大変なことであるが、公民館・公園の草取りと分担してやるとなれば自治会としてもそれほど負担ではないということまでできた。業者が植えて業者が管理しているところは不公平だと感じるが、そのあたりはどう思うか。
- 須貝課長 →業者がやる場所は、眺海の森とか気軽に行って管理や水やりができないところである。そういったことで公共施設等はある程度業者の方をお願いしている。業者をお願いしなければ難しい部分と、自治会の皆さんの協力によってやる部分と手

法の違いが出てくる。

○後藤支所長 →先ほど川田課長が答弁したが、この地域を考えると活性化を目指している。統合保育園も活性化を目指している。どうしたらこの地域の活性化を図れるのかが支所としての最大の課題だと思っている。いろいろな取り組みがあるが、その一つとして働く場、経済活動の場がどう確保されているかが活性化の部分の重要な要素を占めている。

この地域の基盤が最も整っているのは農業である。酒田市としても、稲作だけでは3分の1が休んでいる訳なので、工場で3分の1が休んでいけば成り立たない会社になるわけだ。それと同じ状況の中で、最も基盤が整っている農業をいかに上手く使っていくかが当然のことだと思う。酒田市としては園芸作物や農産加工品などものづくりの部分が一番基盤が整っている農業で強化していきたい。これは本庁の予算で事業としてきちりとある。農協とのタイアップなどいろいろあるのだが、今までのように誰かが何かしてくれれば何かやるかという形では絶対に進んでいかない。

しかし、何か肩を押さないと進んでいかないというのも確かだ。その辺のバランスで支所として苦労している。支所自体も職員が3年から5年で変わる。オーソリティはなかなか育たない。なので、それを役所にだけ期待しても無理がある。その中でどうするのかということは大事なことである。ぜひ地域協議会でもいろいろな思いを語ってもらいたい。我々が答弁するというよりも意見交換していただきたい。我々が尻をたたかれて動く部分も出てくるだろうし、何かアクションを起こすきっかけづくりをやっていかなければならない。

そういう意味でこの地域をどうするのだという地域計画が必要になってくると思っている。その部分を目標に掲げて何をどこまでやるのかを、地域の人が共通理解をしていくことが大事だと思う。そうしたことは時間がかかることだと思うが、そのスタートは今年発足したコミュニティだと思う。その場でスタートさせないとなかなか上手くいかない部分ではないかと思っている。ぜひご意見をいただきたい。

○佐藤旭委員 ○22年度の予算の締切も迫っているということで、この事業以外で支所として来年度予算要求していきたいと考えているものがあれば教えてもらいたい。

○須貝課長 →地域振興課としては地域づくり事業として示した事業が中心となる。あらためて本庁各課に予算化を求めているものとしては特に今のところはない。地域から意見要望としてあがってきたものについては、それぞれ関係課につないで課題解決するように年間を通じてやっていきたい。

○大場課長 →市民福祉課としては事業そのものがあまり無い。市民福祉センターは担当であるので若干の修繕の予算要求を行っている。例えば、畳が年数がたって逆立っているとかそういったところは張り替えをしたい。あるいは駐車場のラインが消えている。これは本年度やりたいと思っていたができなかったのが来年度できればと思って

おり、予算要求はしている。

- 川田課長 →建設産業課も特に新しい事業は無いが、先般入札が終わり外山越線の工事に入りますが、当初 22 年までの継続事業ということで考えていたが、今年度工事を終えてしまおうかということで本庁の土木課と協議している。大きな道路整備事業は外山越線で一段落つくので、今後の市道の整備については再度優先順位に応じて 22 年度以降の整備計画にしていきたい。その他修繕については、側溝整備等、要望があった箇所危険の高い場所から順次進めていきたい。
- 須貝課長 →歴史公園の再整備検討委員会から報告書を先般まとめてもらい、7 月に教育委員会、教育部長に報告していただいた。その後、本庁の関係課の担当者レベルで 9 月に 1 回目のワーキングをもった。定期的にワーキングを開催して歴史公園のあり方を支所本庁ともども協議していくことで動き始めた。
- 佐藤旭委員 ・支所は合併して一番身近で期待している場所であるので、単なる本所の中継基地ではない訳なので、身近な相談にそんなに大きいことでなければ答えられるということを期待している。市民にインパクトのある事業、来年度みんなで、松山総合支所でやるぞということをできればやっていただきたい。
- 佐々木会長 ・酒田市の制度そのものが、我々から見ると支所がちょっと放って置かれているような印象を受ける。制度の問題があるのではないかと思う。  
国外交流事業の関連で、松山の人で受け入れ家庭がなかなかなかったというのが反省点だった。積極的に受け入れる家庭が広がるとありがたいと旧松山町時代から見ていた。

## (2) 酒田市の学区改編方針を受けての地域課題について

- 須貝課長 第 2 回の協議会で酒田市の学区改編の考え方と現在の状況、松山地域の児童数の推移について教育委員会から説明があり、基本的な部分については委員の皆さんの共通認識を持てたのではないかと思う。委員の皆さんの大きな関心事でもあるので引き続き協議会の場で話し合っていたいただきたい。学校のあるべき姿あるいは学区改編の課題について話し合いながら、子どもたちの幸せのために、松山地域としての方向性を探りながら話し合っていたいただきたい。
- 佐々木会長 ○前回の資料を見て、学区再編は避けられないのではないかという共通認識を持ったのではないかと思う。どうすればより良い学区再編になるのか今日の大きなテーマの一つだと思う。その辺を踏まえて様々な意見をお願いしたい。松山小学校の耐震診断が実施されますので、結果がいつ頃出るのか。
- 須貝課長 →2 月までの予定です。
- 佐々木会長 ○だとすればある程度のめどがつくわけだ。中学校についても飛鳥中学校の耐震診断の結果が同じ頃に出るのか。
- 須貝課長 →飛鳥中学校の耐震診断の工期は把握していない。
- 阿部委員 ・酒田市の小中学校の学校基本に対する協議事項ということで、当面存続する学

校の規模についてこう考えますという基本的な条件があるわけで、それに沿った形で協議を重ねていく必要がある。ただ、学校が新しいとか古いとかということにこだわっていると時期的なことで困ることが出てくる。私が現役時代に体験したのは、松山から遊佐町に転勤になったときに、遊佐では一町三小案を教育委員会として凍結して13～14年経っていた時代に行ったので、松山から行ったときは木造の2階建て校舎だった。田んぼの真ん中にある学校に赴任したので冬になると校内に雪が積もる。そういうふうにあまり早い時期に答申案をとって住民から反目されて凍結せざるを得ないというような反省点を繰り返してもらいたくない。

結局、小学校にしても中学校にしても、子どもたちが適正な規模の中で授業を受ける権利がある訳なので、そういった権利を保障してやるのが住民の責務だと思う。学校が新しいからどうこうという問題ではなくて、教育というのは人と場所と時間とそういうものが保障されて初めて成り立っている。そういうものが壊れる状態にならないように対応していく必要がある。早晚になるか、財政的な問題で様々あると思うがそういった問題をクリアして準備していかなければいけない。特に中学校の場合は、学校規模が小さくなれば専門的な教師から専門的な教育を受けられないという悲哀的な段階になるまで我慢することはどうかと思う。そういう面では多少犠牲があるかも知れないが、子どもたちが適正な授業が受けられることを保障してやる必要があるのではないかと思う。

- 佐々木会長 ・私も中学校の場合は教育の機会均等、良質な授業を受けられる権利、そうしたものを保障するあり方が必要だと認識している。
- 齋藤尚委員 ・複式学級をしている学校で統合の話は出ているのか。そういった地区の意見を聞くことも必要ではないか。酒田市では複式は行わないという方針だったと思うが、それに関わってその地区の住民がどのように思っているのか。あと、全体として学区改編をどう思っているか声が聞こえてくるのか。我々には聞こえてこない。その辺が大きな問題だと思う。学校の新旧は関係ないと私も思う。新しくても必要であれば統合せざるを得なくなる。それは別問題であり、子どもたちの教育の機会均等、良い教師から良い施設で教育を受けることができるようお願いしたい。
- 佐藤ゆき子委員 ・私も複式学級担当の区域なのですが、地区の声、特に学校に通っている家庭の中から今いますぐの統合の話は出てきませんが、実際いま小学校に通っていない若しくは子どもがいないというか50～60歳代の大人の話聞く分には、この学校もいつまであるのかという声がかかなりある。私個人の意見としては、今現在、地見興屋小学校は50人弱だが私たちが通っていた学校はもっと多かった。良い先生に恵まれるか、友達に恵まれるかとかいろいろある。それによって伸びるものも伸びないということがあるのではないかと素人ながら心配している。前回の協議会の話聞いて統合もやむを得ないのではないかと個人的な意見だ。確かに地見興屋小学校は新しいが、漠然と考えれば松山小学校は古いのだからどこから分けてとか山寺から分けてとか何も考えなければそう思う。でもそうすると、境はどう

するのとかか考えると、産みの苦しみでどこから分けても最初はおもめるのです。そこをみんなで納得いくようにするというのが話し合いなので。現役の親たちはそんな話は全然しない。

- 佐々木会長 ・今の松山小学校を分ける話で思い出したのが、酒飲み場で市長から、分けたら簡単に済みますねという話をしたことを思い出した。
- 佐藤ゆき子委員 ・でも、もともと松嶺小学校と山寺小学校が一緒になったのだから、山寺を分けてって思う。今の松山小学校しか知らない人は、え～って思うかもしれないけど。
- 後藤支所長 →この間資料を出したので分かると思うが、学区再編の基本方針からすると松山は一つの学校で間に合いますので、他からつれて来るとなると別ですが。
- 今田委員 ・山寺は子どもがいないのです。南部と合併しても全然足りない。一学年1人とか2人とかでは・・・。ちょっと足しても何とも。
- 長堀委員 ・単純に考えると、保育園が一つになるわけでしょう。小学校が三つでバラバラでしょう。中学校はまた一緒になるでしょう。小学校も一つにしたら一番理想的ではないか。
- 佐藤ゆき子委員 ・酒田市の方針を前に聞いたときに、八幡地区は3小学校が合併になっているわけなので一つにまとまっているわけですから、できるのです。そういうことを前提に、教育委員会で教育の均等の場を子どもたちに与えてもらいたいと思う。
- 今田委員 ・中学校ですが、中学校は松山だけでは成り立たないので、場所が平田との真ん中あたりに・・・。
- 後藤支所長 →飛鳥中学校と松山中学校を統合するだけでは、学級規模からすると成り立たない。
- 今田委員 ・では、どこからもってくるのか。
- 阿部委員 ・もってくるというより、もっていかれるのだ。
- 今田委員 ・飛鳥中だけではだめなら、田沢のほうは。
- 齋藤尚委員 ・八幡も、旧3町みんなだ。
- 後藤支所長 →鳥海中と八幡が組みましたので、基本的にはこれは動かないわけです。
- 今田委員 ○じゃあ、緑町のあたりは飛鳥中になるのか。
- 後藤支所長 →絶対無いとは言えないが、せっかく鳥海中と八幡が一緒になったのに、八幡の一部からもってくるという考え方はしづらい、私の見解ですが。平田中と二中の組み合わせが決まりました。
- 今田委員 ・二中ということは、もっとそっちよりもっていくわけだ。
- 佐々木会長 ・だから、どうしてもというなら、平田中の中から東平田近辺をもってくるしかない。
- 阿部委員 ・統合するのは、残った二つしかないわけだ。統合しても規定の規模にはならない。
- 佐々木会長 ・中心部からもってくるのはどうか。

- 今田委員 ・中心部にもっていくしかない。
- 佐藤旭委員 ・この問題は、ただ学校の現状の話ばかりしていても埒があかない話だ。この地域を将来どういう形でもっていくのか。こういった根本的なことを考えていかないと。ただ現実には人が足りないからどっちにくつつくかという問題ではない。この地域にどうやって定住するようにするかが、大きい課題だと思う。
- 後藤支所長 →おっしゃるとおり。こういう議論は行政としてやります。それで良いのかということを知りたい。そうではなくて地域としてどう捉えるのかというのがこの場ではないか。そういう意味で提案したい。
- 長堀委員 ・飛鳥の会長から聞いたが、飛鳥は毎年 10 戸ぐらいずつ増えているそうだ。ただ、平田の家が飛鳥にいつているのか、酒田からベッドタウンみたいに飛鳥に来るのか、その辺の状況もあるわけだ。酒田の人が家を建てる時に、酒田は土地が高いと、飛鳥に来いと。そんなことで人が増えていくのであれば、飛鳥中だってそんなに過疎的なことではないのではないか。ただ、平田だって広いので、田沢とかの人が飛鳥に出てくるのであれば変わらないわけだ。その辺はどのようなものかという感想を受ける。
- 佐々木会長 ・旧平田町の人口動態はどうか。北俣とかから来るだけなのか、それとも中心部から来るのか。
- 長堀委員 ・中心部から来る人もいる。
- 木村委員 ・最近では停滞している。最近では増えない。奥の人が出てきているだけ。増えるということは違うところの人がやってきて新しい世帯で増えていくわけだから。3 倍に増えていた時期があったが、今は増えていない。
- 長堀委員 ・飛鳥だけで内郷くらいの戸数がある。だから飛鳥がどんどん増えて、田沢、北俣、中の俣が少なくなっているのかな。
- 後藤支所長 →基本的に、宅地開発して家が建つか建たないかが大きい。田沢から出てくる分については、宅地開発のところに入らないで自分のところに入る分が多いのかなと思う。緑団地ができてそこに住宅が建った時点では地域的に人口が増える要素があった。ただ、全体的に見ると、奥から出てくる傾向が多い。具体的な数値は承知していない。
- 齋藤尚委員 ・根本はこの町がいかに活性化するか。そこが最大のポイントだと思う。特に産業をどう興すか。商店地域をどう拡大するか。観光だけでは生きていけない。そのほかの興きるものをどう創出するか。
- 土田委員 ・飛鳥と松山を併せても足りないというのは今の時点であって、これから酒田市全体を考えたときに農村地域から学校を取り上げては、ますます農村地域が衰退していくと思う。そのためには、松山・平田地区の田園のところにもちゃんと学校を置いて、市内は市内で学校を分散させて。人数が少なくなるというのは今の時点であって、もっと魅力ある、その地域に住みたいという人を育てるとか地域づくりをするとか、人を呼び込むことはこれからできることですよ。

今の時点では将来はこうなるだろうと思うけれども、都会の暮らしがいやで田園の暮らしをしたいという人も増えている傾向にある。魅力ある土地であればそこに行って住みたい、子どもをのびのびと育てたいと思う人たちが出てくると思う。だから、酒田市全体を考えたときに、全部市内に吸収すればいいというのは酒田市全体にとってはだめだと思う。やっぱり、八幡地区、平田地区、松山地区の農村地帯にも学校を置いて、そこに人が来るようにする方策を考えないと、ただ人口がどうだということではないと私は思う。そのためには平田でも都会から人がきて農林関係でいろいろやっているが、松山も平田と一緒に、松山・平田の地域づくりをやっていくことが大事ではないかと思う。

都会の方から、他の地域から人が来るように思う。酒田市の方に吸収されるのは、酒田市全体の発展のためには良くない。街のことしか知らない、農村のことを知らない子どもが将来日本のためになるのかと思うと、農村地帯を大事にしていかなければだめではないかと思う。

○齋藤尚委員 ・仮に、旧松山町に住宅団地を造るとなると人が集まってくるかな。ただ見晴らしが良いということで人を集めるという方法もあるとは思っただけけれども、はたして人が寄ってくるのかなという気がする。それに関わる日用品の部分、商店の部分。前に小田委員が言っていたアウトレットモールに妊娠している人がいっぱいいるのだということが、それを契機としてその人が入ってくるのか分かりませんがそういうこともあるのではないかな。少し長い目で見ながら、ここの町の人口が賑わいをもつような方策を考えていくことが必要ではないか。

○阿部委員 ・ある人が言うには二・三男坊対策をどうするか。みんな出て行ってしまっ誰もいなくなるのか。それとも安いところを提供して町に定住してもらって条件整備をするのか、そういうことで町が活性化するかどうかということを提唱している人もいる。さっき言われたように、二・三男坊からみんな酒田に出て行かれてしまって、周辺の農村都市は全部衰退するといったことは、二・三男坊対策をどうとってきたかという長い目で見なければどうにもならない。二・三男坊がその農村地域に定住できるような条件整備をしたかしないかということ。新聞に載っていたように来てくれるとただで土地をくれるとかそれは突飛な話だが、半分くらいの土地の値段で融通してそこに住めるという条件整備がなるのかならないのかということだと思う。

○長堀委員 ・今、平田でアパートを建てて入居者を募集していた。だから平田は強気なのだ。あてがあるから建てるのだから。

○今田委員 ・平田から酒田の職場に行くのに 10 分くらいで行く。松山になると 30 分以上かかる。そういうのもあるし、冬期間は大変。交通費が出てもそれで間に合わない。交通費がうんとかかるし。例えば、松山でアパートが 1 万円だとしても平田で 3 万円だったら住むとすれば平田の方に行く。買い物はどこで買えばいいか悩むし、医者診療所しかない。さっき妊婦の話が出たが、妊婦さんが冬どこに行くのか、酒

田とか鶴岡とか。だから、ただ住めばいいという問題ではなくて、学校もそうなのだが、条件というのがある。老人だって医者が脇にいるのと、救急車で行くしかないところと。夜間は見てくれないし。いろいろあるので整備はなかなか大変だと思う。

○佐々木会長 ・直せる場面と、どうしても直せない場面と二つあるわけだ。行政で管理するものと個人でやれる部分とそのへんがある。昭和 26 年、上郷中学校と内郷中学校と松嶺中学校と一緒にして工面して作ったわけだが、そのときの為政者はすばらしい判断をしたと今になれば思う。当時それぞれの町村にあったわけだ。そういう大きな決断はいつかの場面でどういうふうにするのか。いつかはしなければならない。その事業がスムーズに回って、片輪が落ちたと言われないように両輪がスムーズに回って事業ができるような態勢を、ここでみんなにいかにか啓蒙していくかが目標の一つだ。

○後藤支所長 →先ほど意見があったが旧三町の農村部に学校を置くべくだというのがある。それを座標軸として最優先命題にするのと、適正規模というのを最優先にするので考え方がかなり違ってくると思う。学区再編に関してそのへんの議論をしておくというのが大事なだろうと思っている。いろいろな命題があるなかでもこれも叶えばいいのだが、最後になったらどれを取るのだという議論をきちんとしておかないと、いろんな考え方の人がいるので、そういったなかでそこを詰めておかないといろいろな課題が出てきたときに、例えば地域協議会の委員として地域に対するオピニオンリーダーとして情報発信していくときに困るのではないかと思っている。地域活性化の部分については、定住要件をきちんと整備するということが第一点あると思う。下水道とか水道とかは定住要件に入ってくるだろう。それとともに、今度は定住人口を増やす取り組みはどうするのだという議論が一つあると思う。

もう一つは定住人口を減らさないための取り組みがあると思う。地域協議会の場なので、コミュニティのなかでそれは誰が担うのか。地域が担うのか行政が担うのか。行政と地域の協働で担うのかということがあると思う。そののところを分けて、地域協議会という役割からいうと議論すべきところは協働でやるべき部分について議論すべきものなのだろう。地域でやるべきところをコミュニティで議論してもらえば良いという話になるのだろう。行政がやる部分については行政がやる。そういった仕分けのなかで議論していくという手法について、意識して分けて取り組んでいくべきだろうと思っている。

もうひとつ、私自身はこういうふうになっている。松山総合支所がある限り、機能発揮していかなければならない。何をすることが機能発揮なのかきちんと捉えなければならぬ。それからすると、地域の方々が相談に来られる場でなくてはならない。皆さんが何を思っているのかということもきちんと捉えなくてはならない。それをやらないなら支所なんていない。支所の役割をきちんとやろう。これがこ

こ数年来、松山総合支所としての課題だと思っている。そのために来年何をするのですかという部分は当然考えなくてはいけない。第二点としては、なぜ統合保育園を整備したのかということからすると、やはり地域の活性化をどのようにやっていくのかという部分が松山地域の課題だと思う。どうやったら活性化していくのか。そのキーワードは、統合保育園もそうなのですが、やはり人が動くということだと思う。人口は少なくなっている。なかなか増えません。正直言って、合併前から松山の人口構成をみると間違いなくある時期に来ると「がくっ」とくる。人口構成をみると予測できる。そうすると、ベースとして人口を増やす取り組みも必要なのですけれども、手近には、交流する、人が出入りする仕組みをきちんと作らないとこの地域の活性化はまずないだろう。そのために何が必要かという部分はやはり考えなくてはいけない。第二点目の課題だと思っている。

もう一つは安心安全です。その仕組みをどう作るか。そこからするとコミュニティを含めて、地域のことを自分たちで考えていく仕組みを作って行かなくてはいけない。地域から声を出していく。地域の課題をきちんと捉えて、地域課題は何なのか、それは自分たちでやる問題なのか、行政がやる問題か、行政と地域が一緒になってやっていく問題かという仕分けをしながら、それをきちんとしていくというのが松山の将来につながる大きな柱だと思っている。そういうふうにはボールを投げたつもりですが、もっと問題意識を持って自分の考えを言うことが必要だ。ただし、来年度予算についてという話し辛い部分があるのであっているような思いは当然あるのです。そのへんの話し方が上手くできなかった部分もあるのかなということも勘弁してもらいたい。

○佐々木会長 ・少し尻切れとんぼになった感がありますが、他になればこのあたりで閉会にしたいと思うのがいかか。副会長の方から閉会をお願いしたい。

○須貝課長 →その他で、来年度の予算関係であまり内容を深く協議できなかったが、酒田市の新年度の予算の内示が1月末頃に予定されている。これを受けて例年2月の下旬頃に予算の内容ということで地域協議会のなかで説明している。それと併せてどのような内容で報告するかということをして2月の下旬頃に話し合っていたというわけだが、現在地域協議会で継続して話し合っていた内容が学区改編についての問題であるが、できれば年内にこの内容についてもう一度話し合って深めていただければと思っているが、いかがでしょうか。

○佐々木会長 ・私もやった方が良くと思うが、皆さん方はどうか。  
(異議なし)

それではやる方向で検討してください。

○須貝課長 →それでは、会長副会長と時期について相談しながら開催したいと思う。そのほか、委員の皆さん方から案件がありましたら事務局の方に連絡いただければ、会長副会長と協議の上、次回案件として話し合うか検討させていただきたいと思う。

○佐藤洋子委員 ○一つ、私たちは過去の人みみたいなものだけれども、今現在の保護者たちの

意見というのを、中学校と小学校3校あるので、その人たちがどう考えているのかを聞きたいと思うが、アンケートなどできないものか。

- 須貝課長 →学区改編の直接の窓口というのが教育委員会の学区改編推進室になる。そちらのほうで地域の皆さんに正式に酒田市の学区改編に対する考え方の説明等まだやっていないので、そういうことを説明した上で地域の皆さんの考え方を聞くスケジュールに入っていくのかなと感じている。ここでということではできないのかなと思う。
- 佐々木会長 ・確かに、正式な議題になる前に内々の話みたいには何か必要だ。
- 佐藤洋子委員 ・子どもの数がいなくなると言ってるなかで、みなさんどのように考えているのかなと思う。
- 後藤支所長 →例えば、中学校小学校と懇談する機会を設けるとというのが一番やりやすいやり方かなと思った。地域協議会でアンケートをとることは可能です。可能ですが、時期的に如何なものか。
- 佐々木会長 ・教育委員会で正式な話題になる前に、地域の住民の考えを知りたいという思いがある。
- 後藤支所長 →ある程度方針が決まってから地域と懇談をして、その合意形成が得られればという手法になるのではないか。場合によっては、アンケートをとるなら地域協議会なりコミュニティなりでとるということはあり得るのだろうと思う。ただ、今のタイミングはちょっとどうかなと思う。
- 佐々木会長 ・私からすれば、政策決定する前、こういうふうなことをやってくださいよというお願いみたいなことをする前の場面の段階が一つ欲しい。
- 後藤支所長 よく言われます。議会でもそういう議論がある。
- 佐藤旭委員 ・やはり免疫性が必要だから、中で話し合うような環境を作っていないと。
- 今田委員 ・統合の保育園3つ。小学校も同じなわけなので、そのときの保育園の合併に関してアンケートをとった気がする。とにかく保護者の集まりは何回かもたれたと思ったが、そのときに保育園の統合に関してどういった反対意見があったのか。結局、賛成したから統合したのだと思うが。
- 後藤支所長 →旧町時代、議会の常任委員会で保育園の運営ということテーマにして調査活動し、その報告の中で旧町の方針として引き継いだという経過がある。ですから、新市になってから統合保育園について議論するという経過はなかった。議会も含めて一定の方向の了解を得て、松山町の施策論として新市に引き継いだ。なおかつ、ハード面では新市の建設計画というのがあるが、その3年以内の中に入ったので、あくまでも松山から引き継いだ課題だ。合併協議はしましたけれども、酒田市は当時保育園の民間委託というのがテーマでした。松山の場合は3保育園の統合というかたちで、保育園の民営化とはだぶらせないというのが合併協議の中の合意事項だったと理解している。
- 今田委員 ・そのときに話をしたので、ある程度保護者の人たち、少しは免疫ができています。

のかなと思う。

○木村委員 ・みんな考えてはいるでしょう。人が減っているのだから。

○須貝課長 →前回の地域協議会の結果ということで、地域協議会だよりの中で具体的な数字等も含めて皆さん方に配布しているので、関心がある方はそれを見ていただいて、ある程度感じ取っていただけたのかなと思う。

○今田委員 ・そういうふうに徐々に広まっていけば。

○後藤支所長 →コミュニティを含めて、委員の方々がいろいろな機会に、こうなのだよと話合っていたくことも一つなのかなと思う。

○佐々木会長 ・それはやってもらった方が良いかも。それでは閉会にしたいと思う。

○土田副会長 ・今日は全委員が自分の意見を述べられた良い会議であった。まだ、色んな課題があるわけですのでこれからもよろしくお願ひしたい。今日はこれで閉会します。

午前 11 時 56 分閉会